

GUNMA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF
HEALTH SCIENCES

2024

群馬大学大学院
保健学研究科



保健学研究科長挨拶

Gunma University aims to be a world-class Health Science University.

私たちは、世界トップレベルの保健学の研究教育機関を目指しています。ぜひ、私たちの大学院で学んでください。現代ほど、保健学の重要性が注目された時代はありません。保健学は疾患予防や健康増進について情報や手段を提供し、社会全体の健康に貢献することができます。さらに、保健学は、社会的・文化的・経済的な要因が健康に与える影響を研究し、改善するための科学的根拠を提供し、より公正で健康的な社会を実現することができます。

また、現代においては、AIをはじめとする社会の進化や変化が急速に進んでいます。このような変化に対応するためには、学び続けることが不可欠です。学びを通じて、自己実現や社会貢献など、より大きな目標を達成することができます。また、学びは、個人や社会の成長や進歩、そして個人の幸福に欠かせない要素です。大学院で、一生役に立つ生きる学び、知の技法を習得し、自己実現に向けて道を切り拓いてください。私たちは高い倫理観と豊かな学識に基づき、実践力を備えた高度専門職業人リーダーや創造的能力を備えた研究者リーダーを育成します。看護学、生体情報検査科学、リハビリテーション学の各領域において研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな保健医療技術の開発や保健医療水準の向上を通して、社会に貢献するリーダーを育成します。博士前期課程では研究対象課題によって「基礎保健学ユニット」、「応用保健学ユニット」、「地域・国際保健学ユニット」を配置して職種横断型かつ全人的アプローチの研究・教育体制を構築しています。博士後期課程では、専門領域の研究を深化させるために、職種に応じた3領域「看護学領域」、「生体情報検査科学領域」、「リハビリテーション学領域」に分けたカリキュラムを組み立てています。

保健学研究科の重点戦略は、各領域の専門の研究を基礎にした3つの柱です。国際化(Global)、データサイエンス(Data Science)、地域病院連携・多職種連携(Teamwork)です(下図)。専門の研究に加えて、他の大学院にはない強みを活かし、自分自身の能力を開花させるための環境を検討・計画して皆様に提供します。興味がある方は、海外留学、プログラミング、WHO研修など、専攻を超えて挑戦してください。

私自身も国内の研究所や海外留学で研究に触れる機会を得ることができました。今でも、それはかけがえない財産です。大学院の中で一流の研究に触れ、国際的に活躍できる研究者や医療実践者を目指してください。私たちが提供する環境で、皆さん自身の能力を開花させ、世界を変えるリーダーになってください。私たちはあなたの成功を全力で支援します。



齋藤貴之
保健学研究科長

コンテンツ

大学院生からのメッセージ	1
修了生からのメッセージ	5
博士前期課程の特徴	7
博士前期課程各ユニットの特色	8
専門看護師(CNS)プログラム	9
専門職養成プログラム	11
博士後期課程の特徴	12
博士後期課程各領域の特色	13
所属教員と研究テーマ；	
看護学領域	14
生体情報検査科学領域	17
リハビリテーション学領域(理学療法学)	19
リハビリテーション学領域(作業療法学)	20
出願から修了までのプロセス	21
就学支援・教育支援・修了後の進路	22
入試日程・募集人員	23
アクセス・問合せ	24

群馬大学 保健学研究科の重点戦略



大学院生からのメッセージ

看護学領域



博士前期課程

充実した大学院生活で得た知見を自身の活動にかかしていきたいと思います

大学院進学 の 動機

発達障害児・者のきょうだいへの支援を行いたいと思ったことが大きなきっかけです。支援を行うにあたってはきょうだいがどのような支援を求めているかを知る必要がありますが、きょうだいの体験や思いなどが十分に明らかにされていない現状があったため、まずは、きょうだいのことをもっと知っていきたいと思い大学院への進学を決意しました。

大学院進学後の生活

平日、日中は大学での勤務を行い、夜間は大学院での講義や研究活動に励んでいます。課題や研究活動については休日を活用しながら計画的かつゆとりを持って取り組むよう心がけました。大学院と仕事の両立はハードに感じる部分もありますが指導教員や職場の方々、家族の支えによって自身の知見の広がりを感じる充実した大学院生活を過ごしています。

将来の目標

大きな目標は発達障害児・者のきょうだいのニーズに沿った支援を実施していくことです。そのためにきょうだい会などきょうだいの集いの場も設け、現在、大学院で行っている研究を実践的に発展させていきたいと考えています。また、私は大学で勤務を行っているため大学院での学びを学生に還元できるよう教育活動にも取り組んでいきたいと思いません。



関根 恵理香さん
指導教員：金泉 志保美

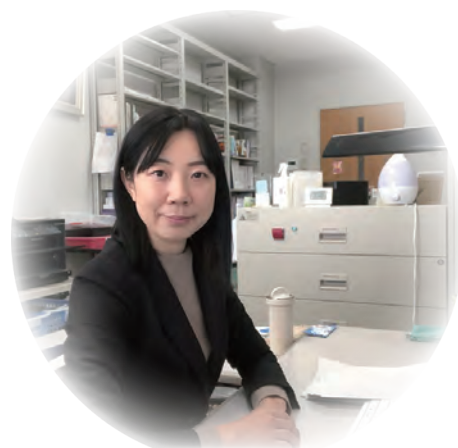
スケジュール

8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
	大学での勤務								研究・授業			帰宅		

博士後期課程

社会に貢献できる研究者・教育者を目指して、日々学び続けていきたいです

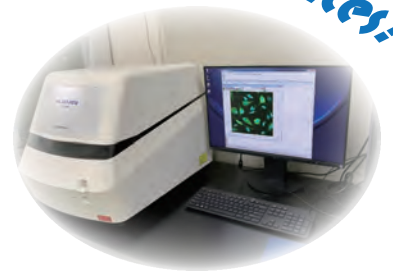
博士後期課程に進学した理由は、研究や教育に関する専門的な知識や、物事を多角的な視点で捉える力を身につけたいと考えたからです。大学教員として働く中で、自身の能力の未熟さを痛感し、大学院への進学を選択しました。研究は、なかなか思うようには進みませんが、研究テーマに関する理論や方法論を学ぶ過程は、新たな発見の連続です。また、研究ゼミでは、毎回先輩や後輩の皆さんから多くの刺激をもらい、研究への示唆と活力を得ています。ご指導くださる先生方をはじめ皆さんには大変感謝しています。将来、社会に貢献できる研究者・教育者として活躍できるよう、日々の学びを大切に自身成長につなげていきたいです。



小西 美里さん
指導教員：近藤 浩子

大学院生からのメッセージ

生体情報検査科学領域



博士前期課程

知識を深めていける人材になりたいです

大学院進学の本質

私は、検査結果や患者さんの異常に一早く気が付く臨床検査技師になることが目標です。結果などを解釈する際、自分の知識がベースとなるため、専門知識を身につけて行くことはとても大切なことだと思います。しかし、受け身で勉強することが多かったため、教科書よりも深い範囲をどうやって勉強すればよいのかわかりませんでした。だからこそ、まずは興味のあることを通して、論文などから自分の知りたい情報や知識を収集しまとめる術を養える大学院に進学しようと思いました。

大学院進学後の生活

実験結果をまとめたり、論文を読んだりしている時間が多いです。論文の読み方、結果の解釈の仕方、着眼点など、多くのことを日々、先生にご指導して頂いています。また、周囲の方たちのプレゼンスキルや説明する能力の高さなど、刺激を受ける機会が多くあります。大学院での時間を自分の欠点と向き合うことにも充て、少しずつ自分を高めていけるよう努力したいです。

将来の目標

細菌が人の免疫や抗菌薬から逃れるための様々な防御力を獲得することに興味があります。将来は病院に勤務して、細菌検査業務で様々な症例を経験できたらと考えています。新しい知識を身につけながら業務に携わりたいです。



山田 真理子さん
指導教員：松本 竹久

スケジュール

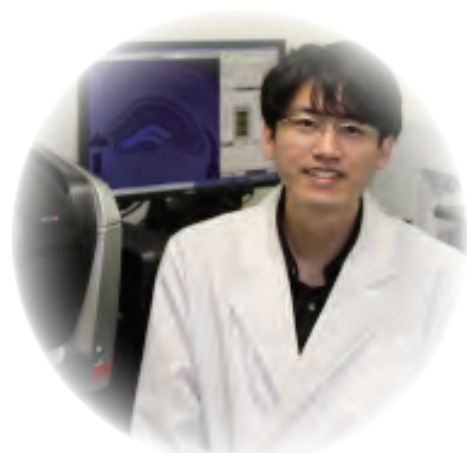
8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
		研究	休憩		研究・授業				休憩	授業			帰宅	

博士後期課程

大学院での学びを生かし、研究者としての道を歩みたいです

私は研究に憧れて学部3年次編入で入学し、大西研究室で脳の研究に取り組んできました。遺伝子組換えマウスをモデルに、生化学、分子生物学、行動解析、バイオインフォマティクスなどの手法で、脳機能の分子メカニズムを研究しています。博士後期課程進学を決めたのは、自分の研究に夢中になり、さらに深く研究を極めたいと考えたからです。現在は自分自身で研究を展開し、論文という形で成果を世界中の研究者に発信できるようになることを目標に、日々研鑽を積んでいます。

生活や学費のために、日中は仕事をしていますが、大学院講義は夜に開講されます。また、大西先生には夜間や休日でも厭わずご指導をいただいております。満足した研究生活を送っています。この学びを生かし、将来は研究者として活躍したいと考えています。



森谷 晃さん
指導教員：大西 浩史

大学院生からのメッセージ

リハビリテーション学領域（理学療法学）



博士前期課程

陸上競技の傷害予防法確立に貢献したいと考えています

大学院進学 of 動機

私は高校の陸上競技部にチームトレーナーとして帯同し、スポーツ傷害の予防とスポーツ傷害発症後の競技復帰に向けたアスレチックリハビリテーションを選手に実施しています。Medial Tibial Stress Syndrome を発症した選手に難渋した経験があります。その経験から疫学調査を実施したいと思い進学しました。



梅澤 達郎さん
指導教員：田鹿 毅

大学院進学後の生活

日中は病院での臨床業務を実施し、業務終了後から大学院の講義を受講しています。休日は大学院の講義を受講する場合や陸上競技部のトレーナー活動や自身の研究活動を進める時間として活用しています。休日に研究活動を進めています。

将来の目標

大学院終了後は臨床業務に従事しながら、スポーツ現場での活動を継続していきたいです。特に中高生を対象にランニング傷害の発症危険因子について調査したいと考えています。将来は群馬県内でランニング検診を立ち上げ、ランニング傷害の予防活動を発展させたいと考えています。

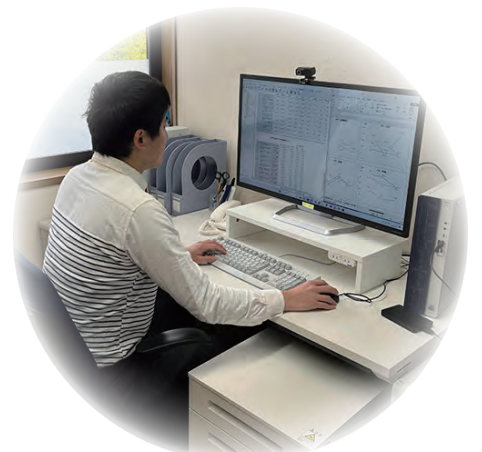
スケジュール

8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
病院での勤務				休憩		病院での勤務			研究・授業				帰宅	

博士後期課程

認知症の方のリハやケアが、より楽になる社会に貢献したいです

学部生の頃から、認知症の方のリハビリテーションやケアに関心がありました。近年発達がめざましいロボット技術にも興味があり、博士前期課程では、認知症の方がロボットスーツを装着して歩行練習した際の効果について研究しました。現在は研究職として東京の職場に勤務しながら、認知症の方の興奮や不安を、IoT デバイスで予測する研究に取り組んでいます。職場は大学から離れていますが、研究室のゼミは夜間オンライン、集中講義は土日のため、平日の仕事には負担なく過ごせています。修了後も研究者として、現場の方々の声を聴きながら、認知症の方のリハやケアがより楽になるよう精進していきます。大学との距離や、仕事と研究の両立が難しいと感じている方も、ぜひ大学院にチャレンジしてほしいと思います。



小此木 直人さん
指導教員：山上 徹也

大学院生からのメッセージ

リハビリテーション学領域（作業療法学）



博士前期課程

大学教員になり、理学療法研究の第一線で活躍したいです

大学院進学の本機

臨床現場で行われている治療に対して批判的吟味ができるような知識や技術を習得すること、新しいエビデンスを創り出すこと、またそれらを発信していくことを目的に大学院進学を決意しました。医学領域は日々進歩していますので、最先端の知識を常に身近に感じられる環境に身を置きたいというのも理由の一つです。

大学院進学後の生活

県内の病院で理学療法士として週5日勤務しています。夜間や休日は受講や研究活動を行っています。幸いにも職場の方々のご協力があり仕事と大学院生活を両立することができています。また、臨床研究のフィールドが勤務先のため仕事をしながらデータ収集を行うことができています。

将来の目標

博士前期課程修了後は博士後期課程に進学しようと考えています。様々な臨床研究を行って新たなエビデンスを創り出していくことは勿論のこと、卒前・卒後教育にも関わりたいと考えており、大学教員になることを目標としています。臨床現場と研究活動を両立していきたいと考えています。



井草 拓海さん
指導教員：平尾 一樹

スケジュール



博士後期課程

作業療法の発展と、教育に貢献できる人材になりたいです

作業療法を発展させていくためには、エビデンスを示していくことが不可欠だと感じていました。まずは、自分自身の研究力を高めるために大学院で学ぶ必要があると思い進学を決意しました。また、自身の夢であった大学教員として働く上で学生に研究指導ができる研究力が必要であると感じていました。

現在は、作業療法士養成校の大学教員として働きながら大学院での研究に加え、地域の高齢者を対象とした研究も行っています。県外から在学していますが、web会議システムも利用しながら研究指導をいただき、効率よく研究を進めることができています。

高齢者の健康に貢献できるように現在の研究を発展させ、作業療法に関するエビデンスを積み上げられるようになりたいです。また、大学教員として大学院で学んだことを活かして質の高い教育や研究指導ができるように努力していきたいと考えています。



北澤 一樹さん
指導教員：三井 真一

修了生からのメッセージ

OB/OG
message!

看護学領域



岡田 奈緒美さん
SUBARU 健康保険組合 太田記念病院
助産師・母性看護専門看護師
2015年博士前期課程修了,
指導教員：常盤 洋子

大学院での生活や研究テーマについて

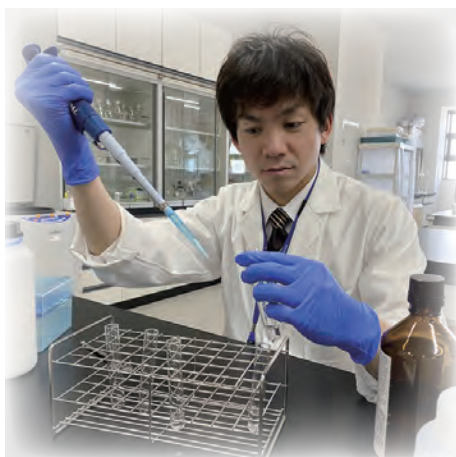
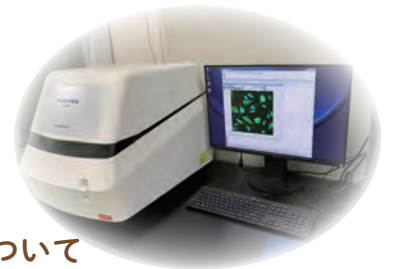
死産をされた母親へのケアが、どこの病院でも、しっかり行えるようになりたいという思いから、大学院へ進学しました。仕事をしながらの学生生活は、大変ではありましたが、2年間で短い時間の中でも、とても濃厚な時間を過ごし学ぶことができました。研究テーマは、「周産期のグリーフケアに対する看護者の認識」をテーマに研究しました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

母性看護専門看護師を取得後、死産をされた母親へのグリーフケアや、10代で妊娠し出産するのか、しないのかなどの意思決定支援や、産後の育児で悩んでしまっている母親への相談などに携わっています。

大学院では、周産期のメンタルヘルスケアに特化された授業が多く、母親や家族の精神面での思いを聴き、どのような支援が必要なのか高度なアセスメント力を学べたことで、他職種との連携を図りながら、相談や調整などを行い、複雑な問題を抱えた母親たちのメンタルヘルスのサポートを行なうことに繋がっています。

生体情報検査科学領域



石原 領さん
学校法人昌賢学園 群馬医療福祉大学
総合保健学専攻オミックス医療科学
医療技術学部・助教
2019年博士前期課程修了,
指導教員：齋藤 貴之
2023年博士後期課程修了予定,
指導教員：齋藤 貴之

大学院での生活や研究テーマについて

血液がんの一種である多発性骨髄腫と Tissue inhibitor of metalloproteinase 1 (TIMP1) との関係について研究をしながら、ティーチング・アシスタント (TA) などで教育にも携わらせてもらえました。さらに臨床検査技師の免許を活かして病院などで働かせていただくことも出来ました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

大学院での研究を通して「仮説を立てること」「検証すること」「考察すること」を繰り返し実施していくことが大切であると学びました。また大学院は時間的な制約が少ない分、スケジュール管理も重要です。これらは研究だけでなく仕事でも同じで、質を上げることに繋がっていると思っています。

TAを通じた教育の経験からは、人に何かをわかりやすく伝えるためにはより深い理解が必要になると知ることができました。そのため講義の際には、説明のための準備を怠らないようにしています。

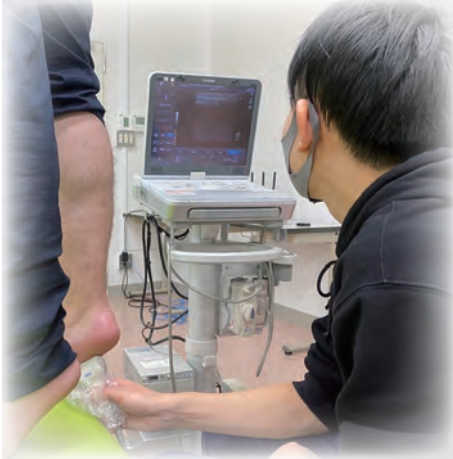
大学院生の時の病院や健診センターでの経験は、臨床検査技師を目指す学生さんに実際に働いた時のことを自分の言葉でお話しができるので、忙しい中でも時間を見つけて臨床検査技師として働くことができたと感じています。

修了生からのメッセージ

OB/OG
message!



リハビリテーション学領域（理学療法学）



清水 亮佑さん
JCHO 群馬中央病院 理学療法士
2023 年博士前期課程修了
指導教員：山路 雄彦

大学院での生活や研究テーマについて

日中は理学療法士として臨床で働きながら、夜間にゼミや講義に出席していました。もともと扁平足について興味があり、関連する足部の組織について研究を行いました。研究測定は業務後や休日を利用して行いました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

講義では研究をするための知識や臨床における一般的な知識、他職種の内容についても学ぶことができました。研究活動においては、興味ある分野の知見を得るだけでなく、他者が理解できるように整理し、そして伝えることの難しさと方法について学べたと思います。また、臨床経験の浅い自分にとっては社会人としての在り方や臨床業務における不安が多くありました。その中で同期の方々へ相談し、情報共有する機会によって少しずつ解消することができました。そのため、学術的な知識を得ながら専門性を高めることで、患者様へのアプローチの一助となったこと、そして、不安や悩みを解消することで自身の成長にもつながったと思います。



リハビリテーション学領域（作業療法学）



柳井 亮人さん
NPO 法人ソソリッサ
2021 年博士前期課程修了
指導教員：李 範爽
写真は 2015 年 11 月ベトナム・ラムドン省第二総合病院にて

大学院での生活や研究テーマについて

私は 2014 年から青年海外協力隊員としてベトナムで 2 年間活動しました。現地では、作業療法支援だけでなく、NGO 活動として僻地巡回型診療にも参加しました。その時に、将来も国際保健分野で活躍したいと思い、博士前期課程への進学を決めました。現在は後期課程に在籍し、「終末期がん患者の全身状態と自己効力感の変化」について研究しています。修了後は途上国に出向き、リハビリテーション人材育成に携わりたいと思っています。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

近年、日本の保健医療福祉分野において外国人材の技能実習生の雇用が増加しており、海外においては日本の企業や法人による病院や医療系学校の建設も続いております。博士号をもつと国際機関や現地教育機関など活躍の場が広がることを知り、日本に戻って大学院に進学することにしました。がんリハビリテーションを研究テーマに選んだ理由は途上国で慢性疾患が急増していることを実感したからです。日本の経験を現地の保健医療福祉分野に応用するためにはどのような工夫、支援、協働、制度が必要か、自分なりの答えを求めながら日々の研究・臨床生活を楽しんでいます。

博士前期課程の特徴

近年、グローバルな感染症の拡大、高齢化社会、生活習慣病、医療者の地域偏在など、人々が健康を維持するための課題が急速に拡大しています。これらに対して、保健学研究科は人々の健康に対する保健システムの観点から健康を探究していきます。

博士前期課程では、保健学の基礎的な分野を扱う「基礎保健学ユニット」、保健学研究の成果を疾患治療に応用する分野を扱う「応用保健学ユニット」、そして地域の問題や国際的な分野を扱う「地域・国際保健学ユニット」の3ユニットが設置されています。学生は、「看護学領域」、「生体情報検査科学学領域」、「リハビリテーション学領域」の専門領域によって更に区分される9つの分野のいずれかに所属しますが、専門領域にかかわらず各ユニットのコア科目の履修が義務づけられており、職種専門領域を横断する教育システムによって保健学を包括的に研究することを当研究科の特徴としています。

その他に、がん看護、老人看護、慢性疾患看護および母性看護の専門看護師養成コースや、指導的臨床研究コーディネーター管理者養成コースも開設しています。

領域 ユニット	看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎保健学 ユニット	基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用保健学 ユニット	応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際 保健学 ユニット	地域・国際 看護学分野	地域・国際 生体情報検査科学分野	地域・国際 リハビリテーション学分野

教育ポリシー

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を有する人
- 2 専門分野での教育や研究を実践するための基礎的な能力を有する人
- 3 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる人
- 4 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる人

<入学者に求める能力・資質>

- 1 博士前期課程の学修に必要な学士レベルの知識・技能を有している人
- 2 研究活動に必要な論理的思考力、コミュニケーション能力、語学力を有している人
- 3 保健医療・福祉の分野で高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人
- 4 修了後に保健学専攻博士後期課程に進学し、保健学の研究者、教育者又は高度専門職業人を志す人

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を修得する教育
- 2 専門分野の教育や研究を実践するための基礎的な能力を育成する教育
- 3 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる能力を育成する教育
- 4 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる能力を育成する教育

3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の条件>

- 1 所定の年限在籍し、かつ、博士前期課程に定められた単位を修得した者
- 2 学部における教育・研究を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、独創的あるいは学際的な研究を進め、博士前期課程論文（修士論文）を作成した者
- 3 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身に付けた者

博士前期課程各ユニットの特色

基礎保健学ユニット（基礎看護学分野／基礎生体情報検査科学分野／基礎リハビリテーション学分野）

保健学全般に共通する理論、技術の構築、開発と評価、さらに保健管理における諸課題を対象とした研究及び教育を行う。また、分子情報の解析などの検査技術の開発やリハビリテーションの対象となる生体運動・精神機能の分析方法などの基盤的保健学教育及び研究指導を行う。ここで扱う研究は保健サービスの人的あるいは物的な管理の向上、また保健課題に対しての分析方法や、それから得られた情報の有効利用を目指すものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「サービスの提供」や「情報」に合致するものである。



応用保健学ユニット（応用看護学分野／応用生体情報検査科学分野／応用リハビリテーション学分野）

がん、慢性病、精神疾患や母性・小児疾患の看護やケア、心電図などの生理学的検査や病理診断技術、あるいはスポーツや作業活動に対するリハビリテーションなど保健学研究の成果を疾患・障害に対する治療に応用する分野の研究及び教育指導を行う。病を持つ人の適応、効果的な看護技術や効果的なリハビリテーション技術の検証と開発及び疾患検査法の開発などが含まれる。さらに、高度専門医療人である専門看護師（慢性疾患看護、がん看護、母性看護）及び臨床研究コーディネーター管理者の教育、養成を行う。ここで扱う研究は効果的臨床応用を目指して保健医療の知識・技術を高めるものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「医療技術」に合致するものである。



地域・国際保健学ユニット

（地域・国際看護学分野／地域・国際生体情報検査科学分野／地域・国際リハビリテーション学分野）

地域で生活する個人、家族、集団及び地域社会全体を対象とした保健学知識、技術に関する教育及び研究を指導する。また、国際保健学分野における諸課題を対象とした教育及び研究指導を行う。さらにチーム医療教育機関のネットワーク Japan Interprofessional Working and Education Network (JIPWEN) を活用し、国際的多職種連携医療教育を推進する。ここでは地域医療の崩壊に伴う諸課題を、地域から、そして国際社会の観点から研究するものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「保健人材」に合致するものである。またここでは、超高齢化地域の諸課題に対応する老年看護を実践する高度専門医療人である専門看護師（老人看護）の教育・養成を行う。



専門看護師（CNS）プログラム

<CNSとは？>

専門看護師〈Certified Nurse Specialist〉のことで、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して質の高い看護を提供するための専門分野の知識・技術を有する看護師のことです。

<CNSになるためには？>

看護師免許を有し、通算5年以上の実務経験（うち3年間以上は専門看護分野）、ならびに大学院博士前期課程での学修が必要です。その後、日本看護協会の認定審査を受けて合格すればCNSの資格が取得できます。

<群馬大学でもCNSの勉強ができるの？>

本学は群馬県で唯一CNSコースを有する教育機関であり、がん看護・慢性疾患看護・老人看護・母性看護の4つのコースがあります。すべてのコースは、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程（38単位）を実施しています。CNS認定審査に合格した本学修了のCNSは、病院、診療所、在宅ケア施設等で活動すると共に、大学で講義を行うなど看護学の向上のためにも活躍しています。

CNSについては、こちらをご参照ください → <https://gununi.health.gunma-u.ac.jp/>



がん看護

がんとともに生きる人を支えるがん看護専門看護師を育成します



がん看護学専門看護師コースは、すべてのがん看護の基本となる「緩和ケア」をサブスペシャリティにしています。

これまでに27名の修了生を輩出、全員が最短で認定審査に合格し、県内外でCNSとして活躍しています。実習では、本学を修了したCNSの指導を受けた後、自施設での実習でもCNSの指導が継続して受けられるようにしています。本学CNS1期生の認定と同時に、群馬県がん看護専門看護師連絡協議会を結成し、事例検討、キャリアアップ、情報交換だけでなく、修了生の認定審査申請のサポートも行っています。

また、従来からのe-learningによる講義を推進するとともに、がんプロフェSSIONAL養成プラン採択事業として、新たにゲノム、小児・AYA・希少がん、がんライフステージ・QOLサポートなど専門家、教育リソースの少ない分野の教育を開始しました。2022年度までに、博士前期課程7名、博士後期課程2名の学生が修了しました。

慢性疾患看護

理論と実践を融合させながらパイオニアとして活躍する慢性疾患看護専門看護師を育成します

◆本学が目指す慢性疾患看護専門看護師とは？：外来、病棟、在宅などあらゆる治療環境において、慢性疾患とともに生きる人々に対して、健康増進、疾患管理、療養支援などに関する高度な看護を行う人材です。特に理論と実践の融合を目指し、根拠のある看護を行う看護師を育成します。

◆慢性疾患看護専門看護師コースの授業内容は？：糖尿病、腎臓病、循環器疾患など、生活習慣病を中心とした慢性疾患に関する講義・演習・実習を行っています。授業科目の概要は、慢性病者の理解に関する科目、慢性病者のアセスメントに関する科目、慢性病者への支援技術に関する科目、制度や体制に関する科目、治療や療養を支える治療環境整備に関する科目、実習の5本柱になります。

◆本学、慢性疾患看護専門看護師コースの修了生は？：病院施設での主任や教育担当、自分で起業したナース、大学教員など、医療施設や教育の場など様々な場所で生き生きと新たな道をパイオニアとして切り開きながら活躍しています。



専門看護師（CNS）プログラム

Certified
Nurse
Specialists !

老人看護

おたっしや社会をクリエイイトする高齢者看護のスペシャリストを育成します



日本の高齢率は世界で最も高い水準にあります。本コースでは、サブスペシャリティを「認知症」と「在宅看護」とし、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するための支援方法を学び、地域包括ケアシステムの中で活躍できる CNS の育成を目指しています。

実習は、病院、認知症専門外来、訪問看護ステーション、介護施設、在宅ケア機関など様々な場で行います。確かな業績と経験をもつ大学教員、老人看護 CNS、医師・薬剤師等他職種の専門家が指導にあたります。

2023年3月現在、12名の老人看護 CNS が本学から誕生しました。病院で高齢者の急性期治療や、退院支援に携わる者、施設で認知症高齢者の生活や健康を支える者、行政で介護予防などの相談業務に携わる者、訪問看護師として高齢者の安らかな最期を支える者、大学で教育に携わる者と、活躍の場と内容は様々です (bpsd.jp/ で検索)。あなたも群馬大学で高齢者に伴走する頼もしい CNS を目指しませんか！

母性看護

母性看護スペシャリストとして幅広く活躍する母性看護専門看護師を育成します

本学の母性看護 CNS コースは、母性看護のスペシャリストとして周産期のメンタルヘルスケア、ハイリスク妊婦・褥婦への高度なアセスメントと看護を得意とする CNS の育成を目指しています。

本コースは、「周産期母子援助」をサブスペシャリティとし、ケアとキュアを統合して複雑で解決困難な健康問題を持つ母子とその家族への高度な看護実践ができる母性看護 CNS を育成する教育プログラムを展開します。教育内容は、①母性看護分野の専門能力を強化する科目（講義：母性看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、②母性看護 CNS の実践能力を強化する科目（講義と演習：母性看護学特論Ⅳ・Ⅴ、母性看護学演習Ⅰ・Ⅱ）、③母性看護の現場で母性看護 CNS の実践能力を養う科目（実習：母性看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の3つの柱から構成されています。

本コースの修了生は、病院施設で師長や主任、教育担当、メンタルヘルス外来の立ち上げ、退院後の訪問活動など、様々な場で母性看護スペシャリストとしての役割を發揮しています。

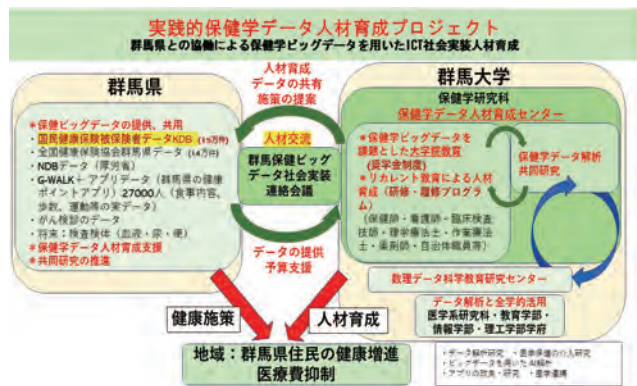


専門職養成プログラム

高度専門医療職を目指す学生は、専門看護師（CNS）の他に、実践的保健学データ人材や臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コース、地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラムを受講することができます。

実践的保健学データ人材育成プロジェクト

「データ分析力×専門職」で、データ分析ができる、社会に貢献する「スーパー医療職人材」の育成



保健学研究科は、群馬県と協働して保健学ビッグデータを用いた ICT 社会実装人材育成を行うことになりました。群馬県から保健に関するデータの提供と予算の支援を受けて、保健学ビッグデータを活用した大学院教育を行います。奨学金制度を作り、プロジェクト課題に月額 5 万～ 20 万円の支援を行います。保健学ビッグデータとして国民健康保険被保険者データ KDB (15 万件) を扱うことができます。

データサイエンスとは、データを用いて科学的に社会に有益な知見を引き出すアプローチのことです。保健の分野では、医療・介護・検診・食事などのビッグデータを解析し、住民の健康増進や予防医学に貢献することが求められていますが、十分な活用ができておりません。

我々の目指すは、「データ分析力×専門職」で、データ分析ができる、社会に貢献する「スーパー医療職の人材育成」です。大学院教育では、保健学研究科と数理データ科学教育研究センターと共同で行います。実践的な保健学データを用いた日本初の人材育成の試みです。

臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コース

臨床研究の高度な知識と実践力を持つ「臨床研究プロフェッショナル」を育成



新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。

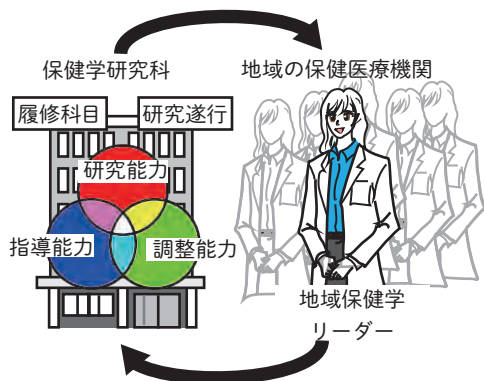
臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター（CRC）やデータマネージャー（DM）と呼ばれる専門職が活躍して、臨床試験や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。

群馬大学大学院保健学研究科では、2001年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、臨床研究中核病院などと連携して実践的な演習を含む「CRC 管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッショナル（臨プロ）」の称号が与えられます。

2023年3月までに、18名がコースを修了し、臨床研究プロフェッショナルの称号が授与されています。

地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラム

地域保健学研究プロジェクトを基盤として、働きながら職場で研究ができる環境を提供します



これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、2007年から3年間文部科学省大学院教育改革支援プログラム（大学院 GP）の支援を受けました。2010年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動の推進や、大学との協働の促進における役割を果たすことが期待されます。2022年度までに48名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け地域社会で活躍しています。

博士後期課程の特徴

博士後期課程では、基礎、応用、地域・国際の3教育研究分野によって縦に構成された看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域の3つの領域から構成されており、各領域の教育研究分野において、それぞれ独自の学問体系を確立するための独創的な教育・研究を進めると同時に、それぞれの領域間を有機的に結びつける学際的な研究を展開することができるよう工夫されています。

◎ 共通コア科目では、教育・研究に必要な原理・方法、国際保健医療推進に必要な能力を修得すると同時に、医学・保健学領域の最先端の情報を得ることで、これからの保健医療・福祉の実践、教育研究の進むべき方向について学修します。

◎ 専門教育科目では、教育研究分野に即した最新の保健医療・福祉に関する情報を修得するとともに 教育・研究の現状と問題点の把握、独創性の高い研究論文精読を通して研究の着眼点や展開法を学修します。

◎ 特別研究では、それぞれの領域で独創性の高い研究を進めるために必要な研究計画、研究方法、研究結果の読解力及び考察力を養い、与えられた課題について、学生自らが博士号に相応しい研究論文を完成させ、国内外の学会で発表するよう指導します。

看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際看護学分野	地域・国際生体情報検査科学分野	地域・国際リハビリテーション学分野

教育ポリシー

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究が実践できる人
- 2 保健医療・福祉分野で、高度な教育が実践できる人
- 3 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野での指導者となる人
- 4 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育及び研究が実践できる人

<入学者に求める能力・資質>

- 1 博士前期課程レベルの保健医療・福祉に関する専門知識と研究経験を有している人
- 2 グローバルな視点で研究を推進し、その成果を広く発信するために必要なコミュニケーション能力、語学力を有している人
- 3 保健医療・福祉等の分野で研究者、教育者又は高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究を実践できる能力を育成する教育
- 2 保健医療・福祉分野で、高度な教育を実践できる能力を育成する教育
- 3 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野の指導者を育成する教育
- 4 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育・研究が実践できる能力を育成する教育

3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の条件>

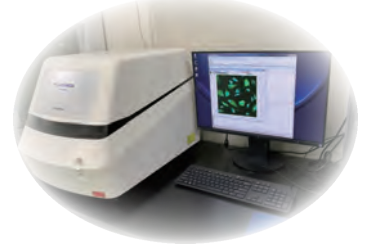
- 1 所定の年限を在籍し、かつ、博士後期課程に定められた単位を修得した者
- 2 学部及び大学院保健学専攻博士前期課程における教育・研究を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、独創的あるいは学際的な研究を進め、博士後期課程論文（博士論文）を作成し、今後も意欲的に研究活動を進めることができる者
- 3 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身に付けた者

博士後期課程各領域の特色



看護学領域（基礎看護学分野／応用看護学分野／地域・国際看護学分野）

看護学領域の特色は、看護学の Key Concepts である「人間」「生活」「環境」「健康」「看護」を中核におき、個人・家族・集団・地域を対象に、健康の維持増進、疾病とともに生きる力、健康生活障害からの回復、個人・家族・集団のエンパワメントや組織力を高める課題を取り上げ、看護活動の成果を示すことである。また、現代社会は、慢性病（生活習慣病を含む）・がん罹患者や認知症者の増加、少子高齢社会、ストレス関連疾患の増大、在宅療養者の増加、医療の高度化・多様化、グローバル化の加速、ICTの進歩がある。それゆえ看護学領域の使命は、ストレス緩和と健康生活の維持のためセルフケア能力を高める支援、疾病と共に歩む人々の QOL を高める支援、在宅療養者・高齢者・小児とその介護者や養育者への支援、周産期母子看護、地域や海外で展開される保健医療活動の支援についての課題を探求し、未知の現象の解明、新しい看護実践の技術、ケアシステムを開発することである。手法としては自然科学的アプローチと人間的アプローチを用いる。また、多職種と連携する保健医療福祉活動において自らの専門性を発揮するとともに、多職種間のマネジメント、調整、相談、教育に能力を発揮し、協働的研究に参画できる高度実践看護専門職を養成する。



生体情報検査科学領域

（基礎生体情報検査科学分野／応用生体情報検査科学分野／地域・国際生体情報検査科学分野）

本領域では、高度・先端医療の進展に伴って必要とされる個としての生体からの精密な情報収集のために、分子、細胞、組織、機能など広範な情報解析を目的とした教育・研究を行い、新たな解析技術開発能力を養成する。生体情報検査科学領域の学問体系を確立するとともに、新たな検査技術の開発及び医療機器や医薬品の開発に参画する。病態生理及びその解析技術、超音波検査などの新しい画像解析診断技術の開発応用に関しては代表的な生活習慣病である血管・循環系の疾病等を対象とし、その検査法とその応用法について研究する。続いて、生体に生じる種々な疾病による組織学的・細胞学的変化や血液細胞の形態・動態の変化を免疫組織化学的及び分子生物学的最先端の技法を用いて解析し、疾病の解明に応用する能力や新しい検査技術開発のための研究をする。そして、病理学的検査・細胞学的検査、血液学的検査に精通した専門的知識と能力の養成を行う。さらに、新興・再興感染症等と生体防御機構との関わりや病原生物の特殊検査法開発等の教育・研究を行う。また、環境保健の情報から得られた様々な研究成果に基づき、国際・地域の保健対策と評価を実践できる専門職の養成を目指す。更に、開発途上国の国際感染症等の新検査法についての研究や保健対策を実施できる能力を養成する。



リハビリテーション学分野

（基礎リハビリテーション学分野／応用リハビリテーション学分野／地域・国際リハビリテーション学分野）

リハビリテーション学で対象とする障害について ICF（国際生活機能分類）は、身体・精神的機能、身体運動や身体・精神的活動、社会生活への参加・適応に関する問題として分類し、さらに個人因子・環境因子といった背景因子の影響をあげている。リハビリテーション学は、これらの問題分析や基礎・応用的介入理論と技術の開発、地域及び社会環境の分析と対応といった包括的な科学としての特色を持つ。また、リハビリテーション学の特性から、保健医療・福祉に関わる専門職者を積極的に受け入れ、学際的な研究・教育者を養成することを特色とする。

所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

④食健康科学教育研究センター兼任

*2025年3月31日退職予定、**2026年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Nursing !



看護学領域

基礎保健学ユニット：基礎看護学分野

●小澤 厚志・教授；E-mail ozawaa@

- ① 遺伝性腫瘍症、代謝疾患の発症機構に関する分子生物学的研究
- ② 遺伝性疾患患者・家族のマネージメントに関する研究
- ③ 慢性疾患患者の長期管理に関する研究

●上星 浩子・教授；E-mail hiroko-jo@

- ① 看護介入における効果の検証
- ② 看護師の臨床判断に関する研究
- ③ 看護教育に関する研究
- ④ 慢性疾患をもつ患者の経験と思いに関する研究

○恩幣 宏美・准教授；E-mail sanaki@

- ① 多様性のある看護職のキャリア発達に関する研究
- ② 看護職の生産性向上につながる職場環境・労務管理に関する研究
- ③ 病棟看護師のコンピテンシーに関する研究

・中村 美香・講師

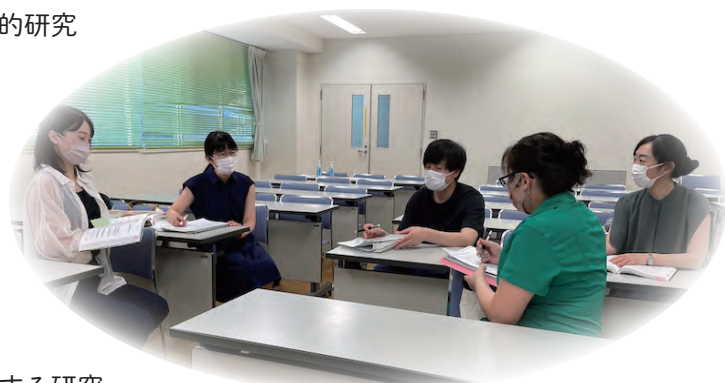
看護師の医療安全や自律性に関する研究等

・柳 奈津子・講師

安楽・安寧に関するケアの効果の検証

・櫻井 一江・助教

- ① 看護職の職業的アイデンティティに関する研究
- ② 人工透析医療に関する人類学的研究



応用保健学ユニット：応用看護学分野

●新井 陽子・教授；E-mail yk-arai@

- ① 周産期メンタルヘルスに関する研究
- ② 家族看護に関する研究
- ③ ハイリスク妊産婦支援に関する研究

●大山 良雄・教授；E-mail ohyamay@

- ① 糖尿病に関する研究（予防、治療、療養指導など）
- ② 慢性疾患の栄養管理に関する研究
- ③ 慢性疾患のトータルマネージメントに関する研究

●岡 美智代・教授 ④食；E-mail michiyooka@

URL: <https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 生活習慣病を中心とした慢性病患者におけるセルフマネージメントに関する研究
- ② 慢性病患者のケアに関するエビデンスや費用対効果に関する研究
- ③ 患者教育に関する研究
- ④ 慢性看護の専門性ならびに慢性疾患看護専門看護師の役割の研究

●金泉 志保美・教授；E-mail kanaizumi@

- ① 慢性疾患や障害をもつ子どもの在宅ケアに関する研究
- ② 子どもの退院支援に関する研究
- ③ 入院中の子どもの日常生活や発達を支援するための研究



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

④ 食健康科学教育研究センター兼任

*2025年3月31日退職予定、**2026年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Nursing !



看護学領域

応用保健学ユニット：応用看護学分野

●近藤 浩子・教授；E-mail hirokok@

- ① コミュニケーション技術に関する研究
- ② 精神看護の実践に関する研究
- ③ メンタルヘルスおよびセルフコンパッションに関する研究
- ④ 精神障害をもつ人のリカバリーに関する研究

●近藤 由香・教授；E-mail yukondo@

- ① がん患者の症状緩和に関する研究
- ② がん患者のリラクゼーション法に関する研究
- ③ がん患者や家族の緩和ケアの開発に関する研究

●篠崎 博光・教授；E-mail h_shinozaki@

- ① 禁煙支援に関する研究
- ② ウィメンズ・ヘルスならびに周産期医療に関する研究
- ③ 周産期医療における人材育成に関する研究
- ④ 栄養管理・栄養支援に関する研究

○國清 恭子・准教授；E-mail kunikiyo@

- ① 周産期のメンタルヘルスに関する研究
- ② 助産ケアの開発に関する研究
- ③ 助産師の教育に関する研究

○牧野 孝俊・准教授；E-mail tmakino@

- ① 父親の育児に関する研究
- ② 慢性疾患患児のストレスに関する研究
- ③ 多職種連携による看護の有効性向上に関する研究

○高橋 さつき・准教授

- ① ICT を活用した患者教育の開発・評価
- ② 慢性腎臓病患者への教育的支援に関する研究

○京田 亜由美・准教授

終末期、治療期のがん患者・家族への緩和ケアに関する研究等

・齋藤 明香・助教

- ① セミオープンシステムに関する研究
- ② 高年妊産婦に関する研究

・瀬沼 麻衣子・助教

がん患者の QOL や治療選択に関する研究等

・塚越 徳子・助教

がんと認知症を併せ持つ患者への看護支援の研究等

・深澤 友子・助教

周産期の母親のメンタルヘルスに関する研究

・松本 光寛・助教 ④

慢性疾患の看護に関する研究



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

④食健康科学教育研究センター兼任

*2025年3月31日退職予定、**2026年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Nursing !



看護学領域

地域・国際保健学ユニット：地域・国際看護学分野

●伊東 美緒・教授 ; E-mail mioito@

URL: <http://bpsd.jp/>

- ① 認知症症状を軽減するためのケア方法に関する研究
- ② 認知症症状を軽減するための生活環境に関する研究
- ③ 認知症症状を軽減するための研修方法の開発



●**牛久保 美津子・教授 ; E-mail ushi2@

- ① アドバンスケアプランニングに関する研究
- ② 退院支援・地域連携に関する研究
- ③ 在宅療養支援に関する研究
- ④ 非がん療養者の緩和ケアに関する研究



●内田 陽子・教授 ; E-mail yuchida@

URL: <http://bpsd.jp/>

- ① 高齢者ケアのアウトカムを基盤とした評価システムの開発（認知症ケア、EOLC、包括的 BPSD ケアシステム® 等）
- ② 地域住民に対する EOLC の意思決定とアウトカムを高めるケア
- ③ 老年看護学のエビデンスと工学を融合した研究



●大庭 志野・教授 ④食 ; E-mail oba@

- ① 生活習慣病のリスクに影響を及ぼす曝露要因の疫学研究
- ② 国際的な比較検討に資する集団のための尺度開発の研究
- ③ リスク因子の知識と疾病予防行動の研究

●佐藤 由美・教授 ; E-mail satoy@

- ① 自治体における保健師の活動方法と評価に関する研究
- ② 保健師の専門能力、人材育成に関する研究
- ③ 地域におけるケアマネジメント、ケアシステム構築に関する研究

○石川 麻衣・准教授 ; E-mail mishikaw@

- ① 行政保健師の機能・役割および活動の特質に関する研究
- ② 健康づくりの展開方法に関する研究
- ③ 地域における健康危機管理に関する研究

○辻村 弘美・准教授 ; E-mail tujimura@

- ① 在日外国人を対象とした健康やヘルスリテラシーに関する研究
- ② 文化や地域性を考慮した看護ケアや対象理解に関する研究
- ③ 途上国を対象とした看護技術や看護教育に関する研究

・柏瀬 淳・助教

- ① 在宅療養をする医療的ケア児やその家族を支える看護に関する研究
- ② 内服薬を必要とする小児の服薬管理に関する研究等

・梨木 恵実子・助教

訪問看護、呼吸器疾患やエンドオブライフケアの在宅高齢者に関する研究

・堀田 かおり・助教

地域における高齢者の健康づくりへの支援に関する研究

・松井 理恵・助教

家族や地域での子育て支援等



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

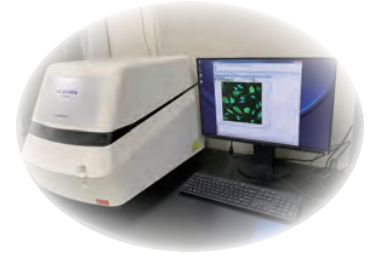
③食健康科学教育研究センター兼任

*2025年3月31日退職予定、**2026年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Laboratory
Sciences!



生体情報検査科学領域

基礎保健学ユニット：基礎生体情報検査科学分野

●大西 浩史・教授；E-mail ohnishih@

URL: <https://biosignal.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

- ① 脳内免疫システムについての研究
- ② 細胞のストレス応答機構についての研究
- ③ 脳老化メカニズムについての研究

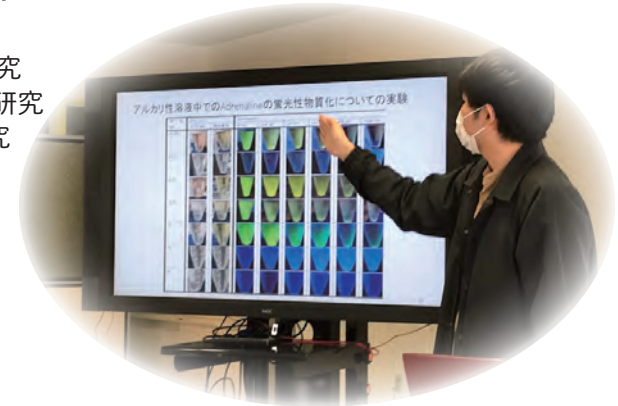


●多胡 憲治・教授；E-mail ktago@

- ① 低分子量 G タンパク質 Ras が制御する発がんシグナルに関する研究
- ② がん、心疾患や糖尿病を制御する G タンパク質シグナルに関する研究
- ③ がん抑制遺伝子産物が制御する細胞内シグナル伝達系に関する研究

●柴田 孝之・准教授 ③食；E-mail tshibata@

- ① 抗がん剤の副作用を回避する投与前検査法の創生
- ② 機能性蛍光色素の合成と細胞イメージングへの応用
- ③ 生体成分の高感度検出法の開発
- ④ 化学修飾を施した人工核酸の設計・合成および生物学的評価



応用保健学ユニット：応用生体情報検査科学分野

●齊尾 征直・教授；E-mail saio@

URL: <https://health-pathology.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 細胞診断学における各種細胞所見の包括的理解のための病理・細胞形態学的研究
- ② 核構造・形態の変化に影響を及ぼす因子についての細胞生物学的研究
- ③ 病理組織の各種染色の定量性における画像解析の応用法の研究



●齋藤 貴之・教授；E-mail tsaitoh@

URL: <http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=16646>

- ① 血液疾患・腫瘍の分子生物学的研究
- ② DNA 修復の研究
- ③ 群馬県と協働した保健学データの解析



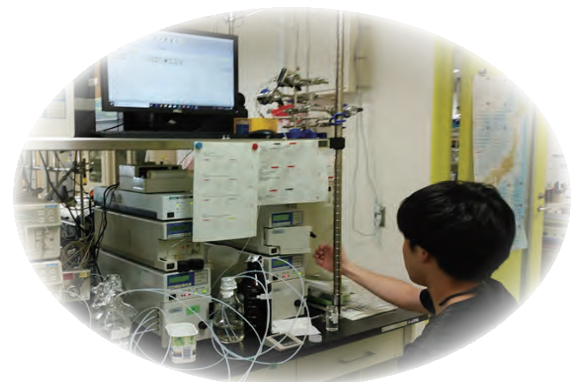
●中村 和裕・教授；E-mail knakamur@

神経変性疾患の治療法開発

●*横山 知行・教授；E-mail tyokoyama@

URL: <http://heart.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 肥満、遊離脂肪酸による不全心、動脈硬化進展機序の解明
- ② 遊離脂肪酸による呼吸器疾患進展機序の解明
- ③ FABP など脂肪酸代謝にかかわる因子と心疾患、動脈硬化に関する研究



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

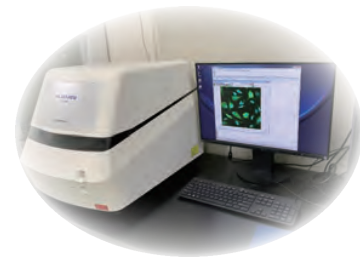
③ 食健康科学教育研究センター兼任

*2025年3月31日退職予定、**2026年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Laboratory Sciences!



生体情報検査科学領域

応用保健学ユニット：応用生体情報検査科学分野

●松井 弘樹・准教授 ③; E-mail hmatsui@

URL: <http://heart.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 脂肪酸の質的制御による疾患予防・治療へ向けた研究
- ② 心肥大、動脈硬化、肺気腫モデル動物を用いた病態解析
- ③ 生理機能検査を用いた循環器疾患のリスク解析



・西島 良美・講師

婦人科病変の早期発見、早期診断への貢献を目指す研究

・笠松 哲光・助教

血液疾患の病態解明等

・後藤 七海・助教

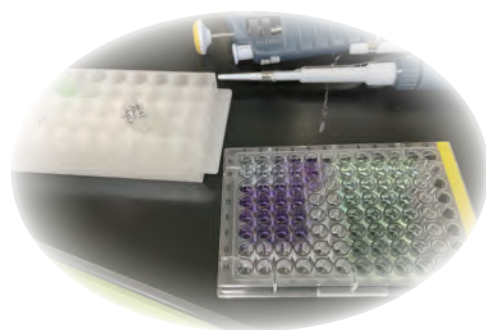
急性骨髄性白血病や多発性骨髄腫等の血液疾患の病態解明

・小林 さやか・助教

組織および細胞診検体を対象とした、癌細胞の核の形状変化に関する研究および画像解析に関する研究

・土岐 明子・助教

糖尿病に関連する凝集体タンパクや肥満に関連する分子の研究



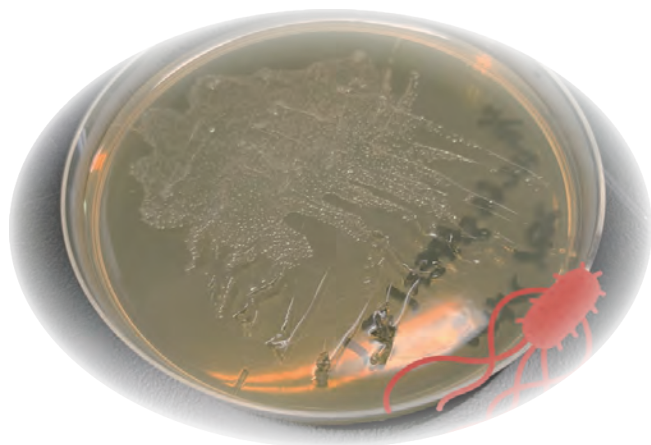
地域・国際保健学ユニット：地域・国際生体情報検査科学分野

○豊村 暁・准教授; E-mail toyomura@

- ① 脳波（EEG）および磁気共鳴画像法（MRI）を用いたヒトの脳に関する神経科学研究
- ② 吃音の神経メカニズムに関する研究
- ③ 発話や上肢、下肢の運動制御に関する研究

・鬼塚 陽子・助教

ヒトと寄生虫との相互作用に関する研究



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

④食健康科学教育研究センター兼任

*2025年3月31日退職予定、**2026年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Physical
Therapy !



リハビリテーション学領域（理学療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

●*白田 滋・教授；E-mail susuda@

- ① 機能的制限に対する理学療法に関する研究
- ② 障害構造の分析に関する研究
- ③ 臨床的評価指標の開発に関する研究
- ④ 神経系障害に対する理学療法の効果に関する研究

●久田 剛志・教授 ④食；E-mail hisadat@

- ① 呼気ガス分析による炎症性呼吸器疾患の病態解析と呼吸リハビリテーションの効果の評価に関する研究
- ② 呼吸器疾患に対するリハビリテーションの効果についての生理学的評価
- ③ 炎症性呼吸器疾患に対する ω 3系脂肪酸由来脂質メディエーターの作用に関する研究

●山路 雄彦・准教授；E-mail tyamaji@

- ① 身体各所から発生する生体信号を解析し、臨床応用する研究
- ② 基本的動作を人間工学的に解明する研究
- ③ スポーツ活動などの研究
- ④ 地域包括ケアシステムに関する研究

・朝倉 智之・助教

三次元動作解析等、基礎的研究

応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

●田鹿 毅・教授；E-mail tajika@

- ① 運動器疾患における超音波運動器評価研究
- ② 運動器疾患の疫学調査（発症危険因子の検討）研究
- ③ 運動器疾患における理学療法介入に関する多角的評価研究

・佐藤 江奈・助教

変形性股関節症の装具療法による身体機能への影響に関する研究

・中澤 理恵・助教

成長期（特に中学生年代）のスポーツ傷害予防に関する研究等

地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●山上 徹也・教授；E-mail yamagami@

URL: <https://brainreha.jimdofree.com/>

- ① 認知症高齢者のリハビリテーションに関する研究
- ② 介護予防（集団・個別介入、評価、地域作り）に関する研究
- ③ 地域におけるリハビリテーション（訪問、通所、施設）に関する研究
- ④ 物・人的環境と対象者の生活機能発揮に関する研究



・加藤 大悟・助教

呼吸器疾患のリハビリテーションや評価方法に関する研究
スポーツ障害の予防に関する研究



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

*2025年3月31日退職予定、**2026年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Occupational
Therapy !



リハビリテーション学領域（作業療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

●李 範爽・教授；E-mail leebumsuk@

- ① 加速度計や圧センサー、Actiwatch などを用いた上肢機能の運動学的解析
- ② 中枢神経障害に対する作業療法の評価、効果検証
- ③ 視空間認知機能障害に対する作業療法の評価、効果検証
- ④ Actiwatch などを用いた身体活動量や生活リズム、睡眠の定量的評価

●三井 真一・教授；E-mail smitsui@

URL: <https://mitsuilab.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 異性間の絆による精神神経疾患の予防・回復効果に関する生物学的研究
- ② 精神発達障害に関わる脳内プロテアーゼの機能に関する研究
- ③ 家族の絆がリハビリテーションに与える効果に関する生物学的研究



・田中 浩二・准教授

高齢者を対象とした作業療法とチームアプローチに関する研究

・野口 直人・助教

頰椎症や脊椎疾患による物品の把持やリーチ動作などの上肢の運動学的特性に関する研究

応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

●平尾 一樹・准教授；E-mail kazuki.hirao@

- ① 閾値下うつ病に対する介入方法の開発に関する研究
- ② 精神疾患を有する人々に対する作業療法の効果に関する研究
- ③ 精神病様体験に関連する要因の同定に関する研究

・下田 佳央莉・助教

- ① Mirror Neuron System の賦活が認知機能に与える影響についての研究
- ② がんのリハビリテーションの効果についての研究



地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●菊地 千一郎・教授；E-mail senichiro@

近赤外線スペクトロスコピーを用いた健常人及び精神疾患における認知機能研究

・川島 智幸・准教授

World Englishes（世界の様々な英語）の授業への応用、教材開発、教育的効果など

・十枝 はるか・講師

発達障害の2次障害の予防につながる早期支援の在り方に関する研究

・秋山 稜登・助教

- ① 定量的指標を用いた上肢機能と視覚機能の分析
- ② 運動・感覚・認知プロセスと日常生活活動との関連性の調査

 @Gundai_OT



 gundai_ot

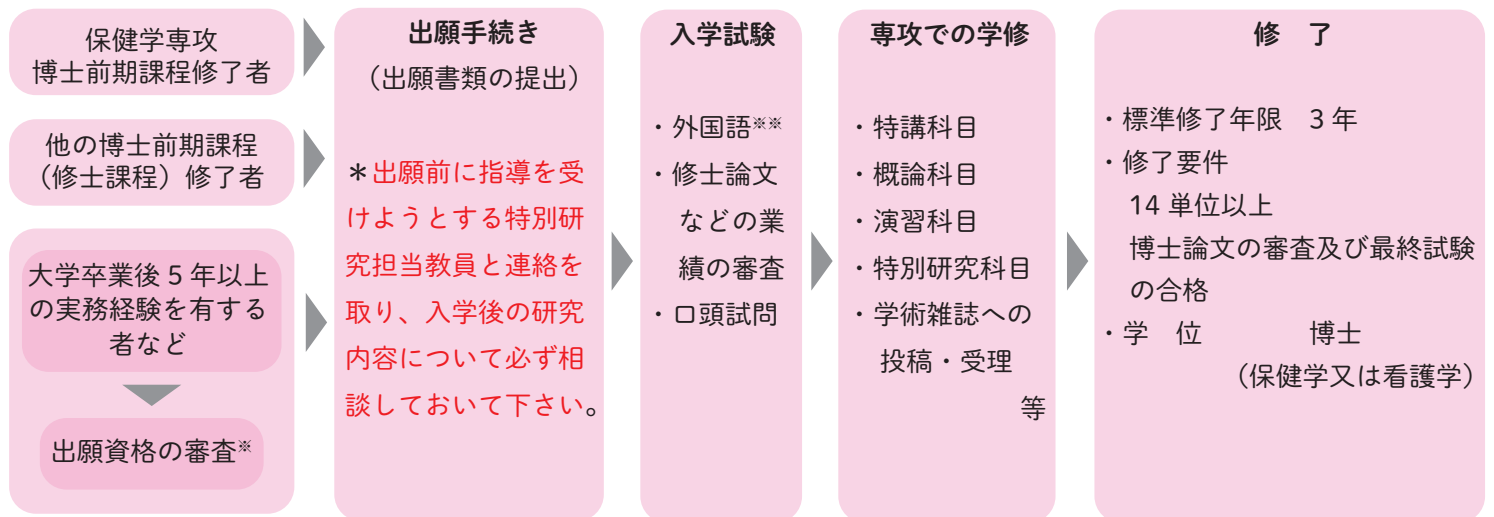


出願から修了までのプロセス

保健学専攻博士前期課程



保健学専攻博士後期課程



※出願資格及び学力試験の詳細は「学生募集要項」をご覧ください。

※※出願時に TOEFL-PBT(Paper Based Test)、TOEFL-iBT(internet Based Test)、TOEFL iBT® Home Edition、TOEIC Listening & Reading Test(公開テスト)、又は IELTS(Academic Module) のいずれか1つのスコアの提出をもって、外国語(英語)の筆記試験に代えることができます。TOEFL-ITP Institutional Testing Program、TOEFL ITP Plus for China のスコアも TOEFL-PBT のスコアに準じて評価対象とします。詳しくは、「学生募集要項」をご確認下さい。

修学支援・教育支援・修了後の進路

修学のための支援

1. 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予
特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の全額若しくは半額を免除する制度があります。また、所定の納期までに、入学料又は授業料の納入が困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。
2. 奨学金紹介
本学では、日本学生支援機構等による奨学金制度の申請を受け付けています。
3. ティーチング・アシスタント（T A）及びリサーチ・アシスタント（R A）
大学院生に実習等の教育補助業務に従事してもらい、これに対する手当支給により、経済的な支援を行う制度です。主に博士前期課程ではT A、博士後期課程ではR Aとして採用します。

社会人のための教育支援

保健学専攻では保健学研究科設置以前より、職業等を有しながら修学を希望する志願者の学習需要に積極的に対応するため、社会人入試を実施するとともに、長期履修学生制度、昼夜開講制、土日の集中講義による授業を行うことで、職場を辞することなく修了要件を満たし、学位が取得できる教育・研究指導を実施してきました。その結果、2022年度博士前期課程では全学生の42%、博士後期課程では72%が主に地域の医療・保健機関で就労している社会人という特徴を有しています。さらに社会人学生の教育支援を行うため、2007年度より「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」プログラムによる地域保健学研究プロジェクトを実施しています。

1. 昼夜開講制、土日の集中講義
開講時間は、昼間：8：50～17：50、夜間：18：00～21：10で土・日曜日にも授業を行うことがあります。ただし、科目によっては土・日曜日は、昼間開講のみになる場合があります。
2. 長期履修学生制度
職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）で修了することが困難な場合、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了する制度です。長期履修学生期間の授業料年額は、規程の授業料年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修学生として許可された在学年限数で除した額となります。
3. オンラインによる遠隔講義
終業後に大学へ登校することなく、自宅や職場で授業を受けられるようにオンラインでの授業を拡充させつつあります。

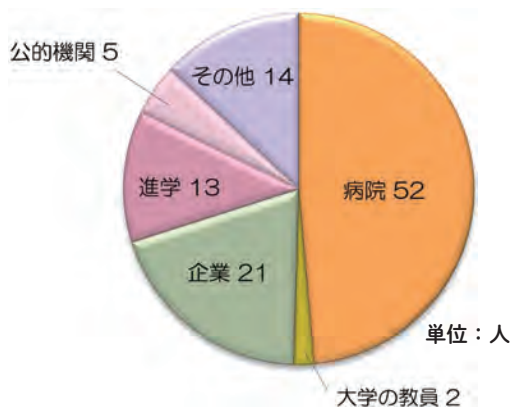
海外派遣支援

海外での学会発表や海外協定校への派遣プログラムなど、大学院生の海外派遣についても支援制度があります。

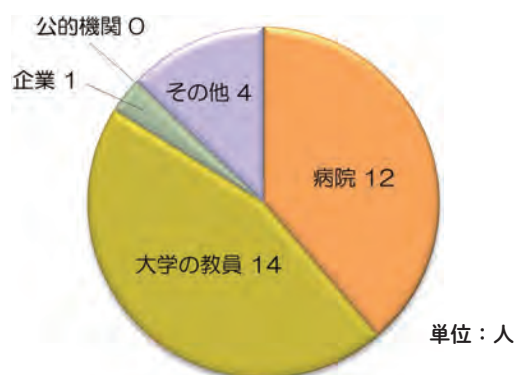
1. JASSO 協定派遣奨学金
2. 群馬大学学生海外派遣支援事業奨励金

修了後の進路

博士前期課程及び博士後期課程修了後（在学中に就業しているものも含まれます）は、保健医療・福祉の教育機関（大学、短期大学など）、医療・福祉機関（群馬大学医学部附属病院、公立病院など）、地域保健・行政機関（群馬県、各市町村など）、民間企業の研究開発部門、医療関連コーディネーター（CRC など）などに多く就職しています。



2020～2022年度、博士前期課程修了者の進路



2020～2022年度、博士後期課程修了者の進路

入試日程・募集人員

2024 年度入試日程

2023 年

～7月3日（月）

- ・出願資格審査締切（該当者）
（審査結果は2023年7月26日（水）までに通知します）
- ・外国人留学生用試験申込締切

7月17日（月）

）

- ・検定料*取扱（納付）期間 *検定料 ¥30,000

8月3日（木）午後3時

7月28日（金）

）

- ・出願受付期間（必着）

8月3日（木）

9月10日（日）

- ・試験実施日

10月3日（火）

- ・合格者発表

※必ず学生募集要項をご確認ください。

募集人員

博士前期課程

専攻	ユニット	募集人員
保健学専攻	基礎保健学ユニット	50名
	応用保健学ユニット	
	地域・国際保健学ユニット	

<入学者選抜の基本方針>

小論文と外国語の学力試験及び口頭試問の結果、並びに志願者が提出した成績証明書及び希望する研究の概要等の出願書類を総合して判定します。また、一般入試のほかに社会人入試及び留学生入試を実施しています。

博士後期課程

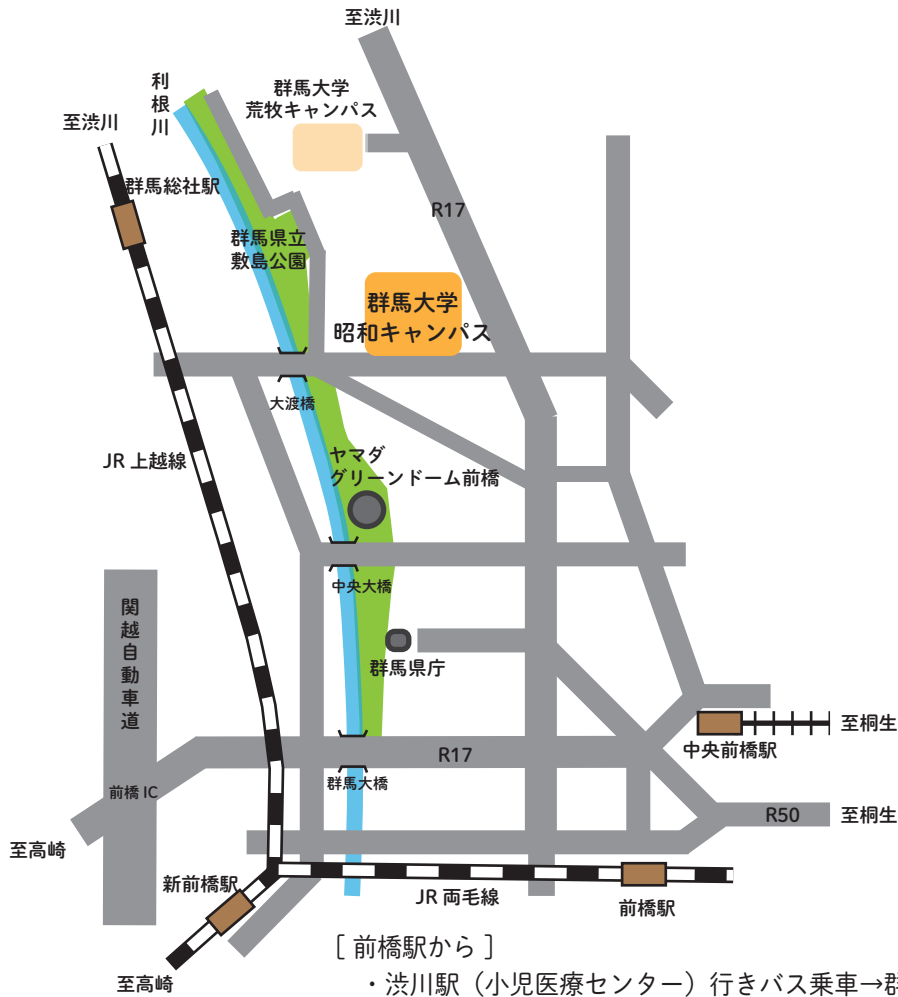
専攻	領域	募集人員
保健学専攻	看護学領域	10名
	生体情報検査科学領域	
	リハビリテーション学領域	

<入学者選抜の基本方針>

学力試験（外国語（英語））、修士課程修了時の提出論文を含む業績又は第一著者として発表した学術論文を含む業績、口頭試問及び学業成績により総合して判定します。また、口頭試問では個別に専門知識及び研究能力に関する試問を行います。

アクセス・問合せ

アクセス



[前橋駅から]

- ・ 渋川駅（小児医療センター）行きバス乗車→群大病院入口下車（約 13 分）徒歩 6 分
- ・ 群大病院行きバス乗車→群大病院下車（約 15 分）

[渋川駅から]

- 前橋駅行きバス乗車→群大病院入り口下車（約 30 分）徒歩 6 分

問合せ

群馬大学昭和地区事務部学務課入学試験係

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22

TEL: 027-220-7797 E-mail: kk-mgakumu5★jimu.gunma-u.ac.jp (★ → @)

※ 特別研究担当教員のプロフィールや研究内容の詳細は群馬大学大学院保健学研究科・医学部保健学科のホームページ (<http://www.health.gunma-u.ac.jp>) をご覧ください。



群馬大学大学院保健学研究科では、Twitter による情報発信も行っています。

 @HealthGu





群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学大学院保健学研究科
保健学専攻